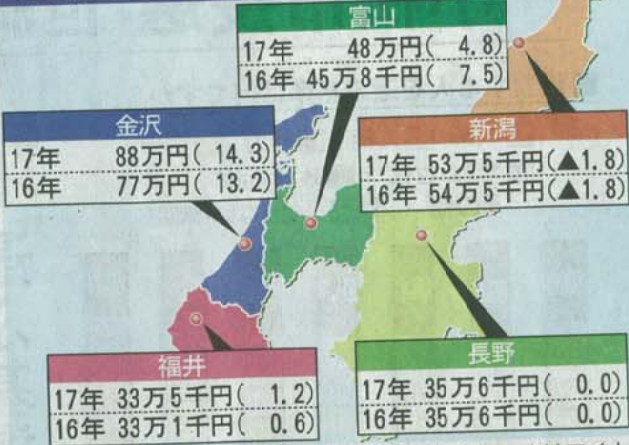


# 金沢、5年連続トップ

## 北陸信越5県「新幹線」駅前

北陸信越5県「新幹線駅前」の公示地価(1m<sup>2</sup>当たり)



カッコ内は前年比変動率: %、▲はマイナス

### 「終着駅効果」際立つ

北陸信越5県の県庁所在地にある「新幹線駅前」の地価を比較すると、金沢市本町2丁目目が上昇率、価格

とも5年連続でトップとなり、終着駅効果の高さを示した。上昇率は前年よりさらに拡大し、2位新潟との

価格差は34万5千円と前年比で12万円広がった。一方、3位の富山は前年より勢いこそ鈍ったが、上昇基調を維持し、新潟に迫っている。駅前の1平方メートル当たりの最高価格は、金沢(金沢市本町2丁目) 88万円、新潟(新潟市中央区東大通1丁目) 53万5千円、富山(富山市桜町2丁目) 48万円、長野(長野市南長野石堂東沖) 35万6千円、福井(福井市中央1丁目) 33万5千円だった。

金沢は上昇率が前年の13・2%を上回る14・3%となり、新幹線未開業の福井を除く4県で唯一プラスを拡大した。石川県によると、

富山県内の公示地価は、全用途の変動率がマイナス0・3%となり、25年連続で下落した。住宅地、商業地がいずれも0・3%下がった。

## 富山県、下落止まらず

### 全用途でマイナス0.3%

駅前では依然としてマンションやホテルなどの開発需要が高い。

3位の富山は上昇率4・8%とプラスを維持した。2位新潟は昨年と同じ1・8%のマイナスだったため、価格差は前年の8万7千円から5万5千円に縮まった。

伸び率は2年連続で鈍化

したもの、地価公示富山分科会代表幹事の朝倉秀朗氏は「空港を利用していた人が駅を使うようになり、商業地区を中心に価格の上昇は今後も続くだろう」とみている。

2022年度に敦賀開業を控えた福井はプラス0・6%から同1・2%と上昇ペースが加速した。福井県

によると、昨年4月に駅西口広場が完成し、離れた路線バスの停留所が移設されるなど利便性が高まった。

長野は2年連続の横ばいだった。同県の担当者は「15年までは下落が続いていたため、地価に値ごろ感が出てきたのではないかと(地域振興課)と話した。

富山市の全用途上昇率は0・2%となり、3年連続でプラスとなった。商業地の最高価格地点は富山駅前にある同市桜町2丁目1平方メートル当たり48万円で、上昇率は4・8%だった。

一方、新幹線駅がある高岡市の全用途は前年のマイナス0・4%から同0・5%に、黒部市は同0・4%から同0・5%に下落幅を拡大した。

ペーターホール

富山市)は東証1部に市場

配当は5円の記念配当を美

21日は記念式典が行わ

北陸(経)済